

番号	2	令和7年度公共事業再評価調書				担当課名	農地整備課																											
事業名	農業農村整備事業				事業主体	静岡県																												
箇所名	にしうら 西浦みかん たちぼこう 立保古宇				関係市町	沼津市																												
事業採択年度	平成27年度			計画期間	平成27年度～令和12年度																													
再評価理由	事業採択(H27)後10年間の経過した時点で継続中			工事着手年度	平成27年度																													
事業費 (百万円)	全体計画事業費		～R5年度	R6年度	R7年度見込	R8年度以降																												
	4,213		1,036	232	340	2,605																												
事業量	農道工 延長7,487m		1,703	167	431	5,186																												
	用水路工 延長250m		0	0	0	250																												
	鳥獣害防止柵工 延長15,000m		0	0	0	15,000																												
事業概要	(1)事業目的 本地区は、海岸線沿いの急峻な山間地に広がる樹園地で、果樹の運搬や防除などの営農条件が非常に悪い。このため、本事業により農道及び用水路を整備し、営農条件を向上させ、担い手の農業経営の安定化を支援する。また鳥獣害防止柵を設置することで、農業被害の発生を防ぐとともに営農意欲の向上を図る。 (2)事業内容 受益面積：84 ha 農道工：7,487 m 用水路工：250 m 鳥獣害防止柵工：15,000 m																																	
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 古くからみかん栽培が盛んな地域であり、県東部地域の主要な産地である。担い手農家の生産意欲も高く、担い手への農地集積が進んでいる。また高品質な「寿太郎みかん」ブランドの産地として、令和2年11月にGI登録され、「寿太郎みかん」を生かしたコラボ商品や様々な加工品の開発が進んでいる。ドローンによる薬剤散布の検討など、更なる営農作業の効率化を目指している。令和元年には地域の応援体制として「西浦みかん土地改良区」が設立され、令和6年に土地改良事業地区等営農推進功労賞を受賞した。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和6年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>1.2</td><td>1.4</td><td>1.7</td><td>8.7%</td></tr></table> ・総便益 (B) 47.5 億円 ・総費用 (C) 38.9 億円 ○見込まれる効果 (定性的な効果) 農地整備による走行経費の節減、用水路整備による営農経費の節減などが見込まれ、担い手農家への集積が進んでいる。また、農道の一部は沿岸集落から高台への避難路として位置づけられている。 (3)事業の進捗状況 (令和7年度見込み) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>38.2%</td><td colspan="2">(1,608 百万円 / 4,213 百万円)</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>農道</td><td>30.7%</td><td colspan="2">(2,301 m / 7,487 m)</td></tr><tr><td></td><td></td><td colspan="2">(m / m)</td></tr></table> 評価継続が妥当							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	1.2	1.4	1.7	8.7%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		38.2%	(1,608 百万円 / 4,213 百万円)		事業量	農道	30.7%	(2,301 m / 7,487 m)				(m / m)	
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																															
1.2	1.4	1.7	8.7%																															
区 分		進捗率	内 訳																															
事業費		38.2%	(1,608 百万円 / 4,213 百万円)																															
事業量	農道	30.7%	(2,301 m / 7,487 m)																															
			(m / m)																															
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み	今まで、現道幅員が狭小なため、大型重機搬入が困難で、施工期間がみかんの収穫・出荷時期を除く期間に限定されたことから、農道の年間工事稼働件数は約2件であった。 令和6年度までに農道は全延長7,487mのうち1,870m(25%)が完成し、所在者不明の土地や相続等により遅延していた用地買収補償は約5割が完了。今後は、幹線農道の整備が進み、そこに繋がる支線農道の施工も可能となるため、重機搬入や工事期間中の迂回路の確保が可能となり、工事稼働件数を概ね4倍(約8件)に増加できる。これにより事業を円滑に進捗することができ、令和12年度までに完了する見込み。 評価継続が妥当																																
【視点3】	新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	農地整備にあたり発生した建設発生土を、窪地となっている谷側のみかん畑等の整地に有効利用すること、平坦な優良農地への改良を行うとともに、谷側のブロック積等の道路付帯構造物の設置箇所を削減し、工事費のコストの削減を図っている。																																
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を【継続】する。 (2)理由 本事業により農道の整備が進み、通作や輸送の利便性が大幅に高まり、営農の効率化が図られている。また、用水路の整備が進むことで防除作業の効率化が図られるとともに、鳥獣害防止柵を設置することで、農業被害の軽減、営農意欲の向上に繋がる。受益者からは、「整備効果が出ている」等の事業推進に期待する前向きな意見が多数出ており、今後の事業進捗が見込まれるため、事業を継続する。																																	

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地整備課

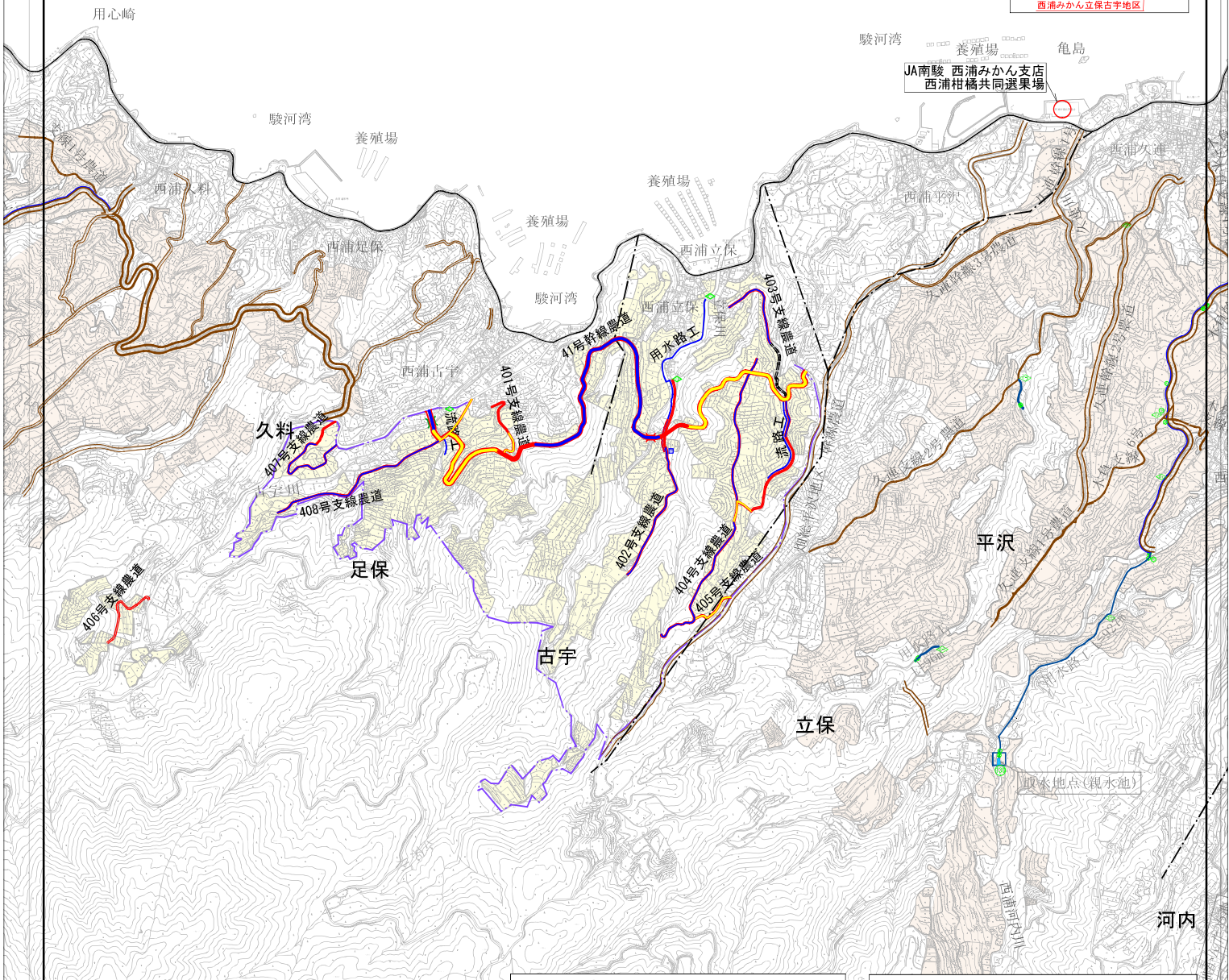
事業名	農業農村整備事業	地区名	西浦みかん立保古宇 (にしうらみかんたちぼこう)
総 便 益 額 の 内 訳	効 果 の 算 定		
	品質向上効果 農道の整備により、悪路輸送による生産物（温州みかん等）の荷痛みが防止され、品質向上の効果が発生する。		
	〔便 益〕＝ 256,875 千円		
	維持管理費節減効果 農道整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。		
	〔便 益〕＝ △ 2,479 千円		
	営農に係る走行経費節減効果 農道整備により、自宅から農地、農地から出荷場への距離短縮や車両改善によって走行経費の縮減効果が発生する。		
	〔便 益〕＝ 3,816,460 千円		
	営農経費節減効果 農業用水の整備による営農効率の向上等により、農作業時間の短縮効果が発生する。		
	〔便 益〕＝ 292,498 千円		
	維持管理費節減効果 用水路の整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。		
	〔便 益〕＝ △ 5,887 千円		
	営農経費節減効果 鳥獣害防止施設の整備による有害鳥獣害駆除に要する時間の短縮効果が発生する。		
	〔便 益〕＝ 9,404 千円		
	維持管理費節減効果 鳥獣害防止施設の整備により、維持管理する施設の延長が増量するため、新たな維持管理費が発生する。		
	〔便 益〕＝ △ 5,931 千円		
	作物生産効果 鳥獣害防止施設整備により、被害が防止され現況単収が増量するため、新たな作物生産効果が発生する。		
	〔便 益〕＝ 369,385 千円		
	国産農産物安定供給効果 鳥獣害防止施設整備により、国産農産物の安定供給効果が発生する。		
	〔便 益〕＝ 24,533 千円		
	総便益		
	256,875 + -2,479 + 3,816,460 + 292,498 + -5,887 + 9,404 + = 4,754,858 千円 -5,931 + 369,385 + 24,533 + 0 +		
総 費 用 の 内 訳	総費用		
	① 事業着手時の資産価額 115,946 千円（既施設の資産額を減価償却により整理）		
	② 当該事業費 3,539,794 千円（当該事業で整備する施設費用）		
	③ 関連事業費 0 千円（当該事業に関連する施設の費用）		
	④ 評価期間における再整備費 691,940 千円（工事期間＋40年の評価期間内の再整備費）		
	⑤ 評価期間終了時点の資産価額 462,186 千円（工事期間＋40年の評価期間終了時の資産額）		
	総費用＝①＋②＋③＋④－⑤		
	3,885,494 千円		
	総費用総便益比		
	①総便益 4,754,858 千円		
	②総費用 3,885,494 千円		
	総費用総便益比 ＝ 1.22		

農業農村整備事業

西浦みかん立保古宇地区 計画一般図

A4 1 : 20,000

県内位置図



凡 例	
—	R 6 年度まで
—	R 7 年度実施
—	R 8 年度以降

凡 例	
—	受益(樹園地)
—	農道工 幹線農道
—	農道工 支線農道
—	橋梁新設
—	橋梁既設利用
—	幹線農道(別事業)
—	支線農道(別事業)
—	主要地方道
—	県 道
—	用水路工 送水管路
—	" 配水管路
—	" 貯水槽
—	鳥獣害防止柵
—	給水スタンド

整 備 概 要			
工 種	系 統 名	計画事業量	
農業生産基盤整備	農業用排水施設整備	管水路工 L=250m	
	農道整備	幹線農道	道路工 L=2,523m
		支線1号農道	道路工 L=273m
		支線2号農道	道路工 L=740m
		支線3号農道	道路工 L=1,054m
		支線4号農道	道路工 L=1,120m
		支線5号農道	道路工 L=162m
		支線6号農道	道路工 L=292m
		支線7号農道	道路工 L=494m
		支線8号農道	道路工 L=829m

事 業 概 要	
受益面積	84.1 ha
事業費	4,213 百万円
主 要 工 事	農道工 幹線農道(W=5.5(4.5)) 1路線 L=2,523m 支線農道(W=3.0(2.5)) 8路線 L=4,964m 計 9路線 L=7,487m 用水路工 L=250m 鳥獣害防止柵工 L=15,000m
関連事業	—
事業主体	静岡県

●社会情勢等の変化

【H24】西浦柑橘共選場の光センサー式糖酸分析器導入

【H29】「寿太郎みかん」の機能性表示認可

【R02】地理的表示（GI）保護制度登録



西浦柑橘共選場

「寿太郎みかん」ブランドを生かしたコラボ商品や加工品の開発



寿太郎みかんプレミアムゴールド アニメとのコラボ 西浦みかん寿太郎缶詰 寿太郎みかんジュース



援農ボランティア

JAによる援農ボランティアの募集

→ 人手の確保（リピーターも多い）

令和5年実績：延べ632名（R3:587名）

令和元年6月17日西浦みかん土地改良区
設立（組合員436人）

令和6年度関東農政局土地改良事業地区等
営農推進功労賞受賞



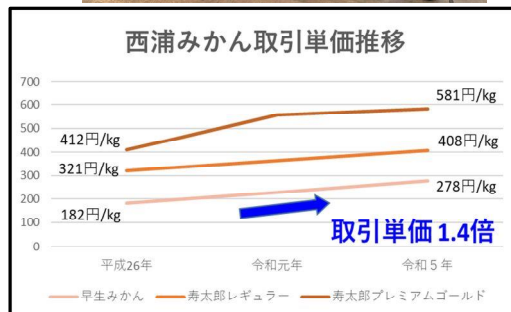
受賞式

令和6年1月31日
東京中央卸売市場（大田市場）
西浦みかん寿太郎（赤秀）

初競り価格 10万円/5kg の高値



初出荷（大田市場）



スマート農業の導入



実証実験状況



薬剤散布状況

【実証実験の結果】

斜面の樹園地散布の場合
10aあたりの作業時間

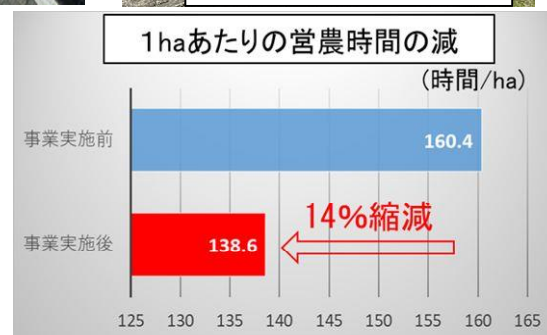
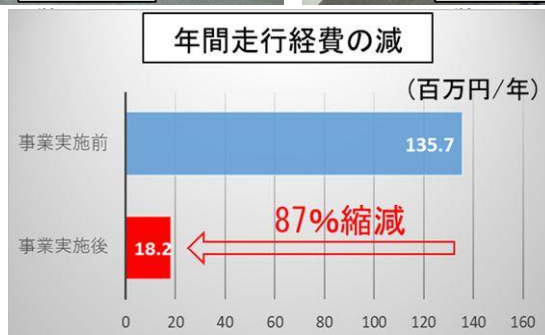
3時間 → 10分に短縮

95%縮減

●事業の必要性等(農道、用水路工)
 <農道工>



<用水路工>



【費用対効果】

総便益(B) 47.5億円

総費用(C) 38.9億円

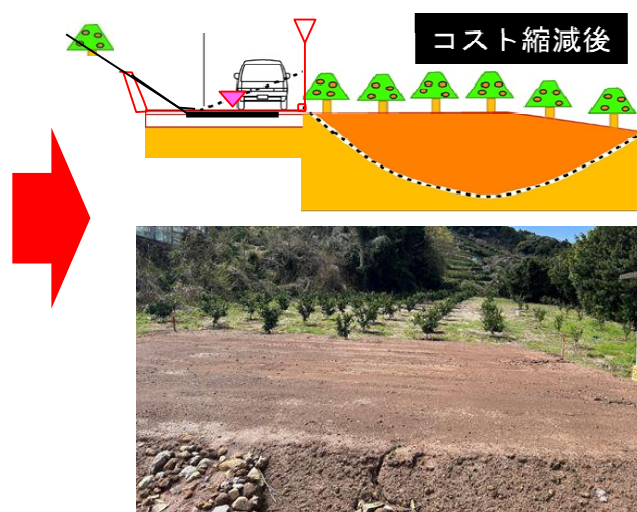
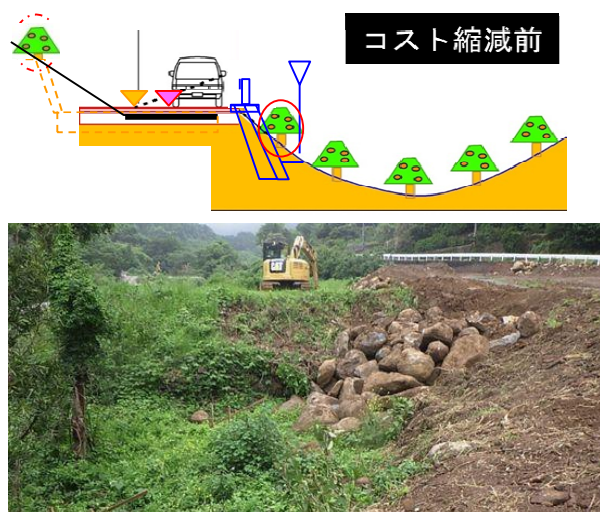
総費用総便益比(B/C) 1.2

経済的内部収益率 8.7%

●コスト削減・代替案立案等の可能性

1 構造物施工費及び残土処分費の削減

- ・ 中心線形の決定に当たり谷側へのシフトを選択
 - ・ 農道計画に隣接する畑のみかん改植のタイミングに合わせ、発生土の搬入整地と農道工事を同時実施
 - ① 構造物(谷側ブロック積、ガードレール)の削減
 - ② 残土処分費用の削減
 - ③ 農道整備により営農を再開する耕作者も増加
- ※併せて道路に隣接した優良農地を生み出すことで、今後、集積の促進が見込まれる。



3箇所計画(1箇所実施済)

①削減額 約13.1百万円/箇所×3箇所 約39百万円の削減
 ②削減額 約34.2百万円/ha×約3.5ha 約120百万円の削減

計 約159百万円のコスト削減

●比較表

項目	当初(H27)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	H27～R06	H27～R12 (+6年)	・補強土壁工・ブロック積工の増や用地制約等に伴い、完了年度を延伸
②全体事業費	2,093百万円	4,213百万円 (+2,120百万円)	・補強土壁工の増、路床安定処理固化材の工法変更による増、岩盤破碎・処分増 ・構造物の設計数量、補償範囲の増

事業費の増額理由

- 1 道路付帯構造物（補強土壁工、ブロック積工等）の数量の増

(909百万円)
- 2 構造物の数量及び補償範囲の増による設計費及び用地補償費の増

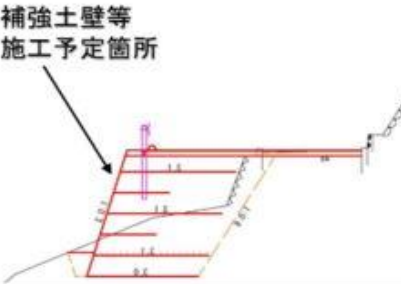
(317百万円)
- 3 路床安定処理固化材を発塵防止型に変更、岩盤破碎・処分費用の増

(171百万円)
- 4 物価変動による工事費等の自然増

(723百万円)

道路付帯構造物の増

補強土壁等
施工予定箇所



樹園地

路床安定処理
固化材の変更

補強土壁等
施工予定箇所



幹線農道の状況（拡幅前）



発塵防止型固化材使用状況